

Kayak Dog

[Home](#) ▶ [工房 "KAYAK9"](#) ▶ [Wood Duck 12の製作](#) ▶ (9) コックピットのファイバーグラスラッシング

(9) コックピットのファイバーグラスラッシング

2011年 9月 08日(木曜日) 22:41 | Author: サセックス卿 | [📄](#) [📄](#) [📧](#)

ハルの内側をエポキシで防水コートすると共に、コックピット部をファイバーグラスで強化します。人が座るコックピット部、バルクヘッド前1m余りをボトムパネルとサイドパネル接合部の上までファイバーグラスラッシングします。比較的平らな面とはいえ、ハル外側のグラッシングのために良い練習になるでしょう。

6オンス (200g/m²) のファイバーグラスを必要な量カットし、ハル内側にできるだけピッタリ密着させておきます。使うのは生のエポキシ、1平方フィートに30ml必要とThe Epoxy Bookにはありました。



さて、ファイバーグラスラッシングの時、どのようにエポキシを塗り広げクロスに浸透させたら一番効果的なのだろう？

刷毛で塗る

ぶちまけたエポキシをスキージで広げる

ローラーで塗り広げる

さまざまなやり方と主張があるようですが、まず除外されるのは刷毛塗りでしょうね。エポキシの粘度は木工ニス (油性、原液) にそっくりです。木工塗装作業であるニスを原液で塗ったりは絶対にしません。のびないし垂れやムラができて、せっかくの作品が台無しになっちゃいます。ニスの容器には「10%までシンナーで希釈する」と書いてあったりしますが、10%ではまだ濃すぎると思え、もっと (ペンキ屋さん用語で) シャブシャブなヤツを何度も塗り重ねるようにしています。

エポキシ塗布とニス塗装はもちろん違いますが、クロスに浸透し織り目を隠すのに必要最低限のエポキシを使えば良いわけで、必要以上にボタボタと塗ってもスムーズな仕上がりにならないような気がします。エ

メインメニュー

[Home](#)

[工房 "KAYAK9"](#)

[Wood Duck 12の製作](#)

[カヤック製作準備](#)

[アトリエ](#)

[情報源](#)

[アマゾン号に乗りたい!](#)

[コンタクト](#)

[ブログファイル](#)

[ブログフィード](#)

[Links](#)

ポキシを（アセトンなどで）希釈すれば良いとの意見もあるようですが、System Threeではあまりこれを推奨してはいないようです（有機溶剤は使いたくないし）。参考にした書籍には以下のような記述がありました。

The Epoxy Bookには、

クロスにレジンをしみ込ませていく（wet out）
 スキージを使いレジンを織り目に押し込もうと（force it through the weave）しないように
 クロスをスキージすると半乾き（semi-dry look）に見え、表面の織り目は見えるがクロス自体は透明である
 （最初のグラッシング後）クロスの織り目を研磨しようとしてはならず、エポキシで埋めるようにしなさい

また、「新版カヤック工房」には、

エポキシの量はクロス全体が浸みるのに必要な最小限にとどめておく
 余計なエポキシはスキージを使ってクロスの下から絞り出しておこう
 表面は平でツヤのない状態になるはずだ、白くなっている部分はエポキシが少なすぎ、一方、光っていたり盛り上がっている部分はエポキシが多すぎるのである

また、

2回目のエポキシ塗布でガラスの織り目を埋める作業にとりかかる（fill coat）。
 クロスの目を埋めるのに2層から4層のエポキシ・コートが必要になる。若干織り目が見える部分があっても良いが、ハルのほとんどがスムーズでツヤのある状態になっていなければならぬ。織り目を埋めるために必要以上のエポキシを使ってはいけない、それでボートの強度が増すことはなく、重量が増えることになるだけである。

こうした記述は参考になりますが、実際どのように見え、どれが丁度良いか減なのかやってみないと分かりません。で、トライしてみたのは、

ローラーで塗布する：推奨されているWest System社のローラーをamazon.comで売っており、ホームセンターで入手できるFRP用ローラーより安価でした。
 スキージで塗りあげる：堅いスキージではクロスからエポキシをはぎ取ってしまうのを練習時に経験したので、もっと柔らかなシリコンゴム製スキージを作り、寝かせて使ってみました。
 スキージでどの程度エポキシをしごき出したらよいか分からなかったため、ちょっと押さえた部分（クロスの織り目に触る感触が伝わってくる位）と撫でるようにした部分の両方でやってみました。

ファイバークラッシング部を見て分かるようには撮影できなかったため、ちょっと書いておくと、

専用ローラーのスポンジは大変薄く、エポキシをボタッと含まないため広い面積に薄く塗布することが可能でした。推奨されているのが理解できます。ゆっくり動かしても小さな泡が発生しますが、これはスキージあるいはウレタンフォームで撫でてやれば簡単に取れました。
 エポキシを塗布した後、クロスへの浸透を少し待ってからスキージで浮いている余分なエポキシを軽くしごきとると、本に書いてあるとおり半乾きで光沢のない状態になりました。一方、撫でるようにした部分ではクロス表面にエポキシが浮いてツヤツヤして見えました。こちらではエポキシがムラになっている箇所が見られましたが、軽くしごいた部分にそれはなく均一に織り目が見えています。この織り目を埋めるには更に数回のコート（fill coat）が必要になりそうです。

と言うわけで、ローラー＋スキージ＋ウレタンフォームで薄く塗布するのをモットーに作業していこうかと思っています。が、これで良いのか自信がない・・・（道具と使用方法についてはいずれ別カテゴリーにまとめる予定）

同時に木部防水のためハル内側全体をエポキシで数回コートします。合板表面にそのままエポキシ塗布したので仕上がりはガザガザ。サンダーかけたくなっちゃいましたが、まあ内側だから意味ないですね。エポキシが浸みて結構濃い色になりましたが、これが仕上がりの色味ということになります。

パウ：右端はファイバークラッシングした部分（fill coat前）



スターン：バルクヘッドまでファイバーグラスラッシング（fill coat前）



フィルコート（fill coat）したハルとデッキ



木部のガラガラ感が見て取れます



以上のようにファイバーグラスシングをやってから二日後、あらためて蛍光灯の下でしげしげ眺めてみると、結構気になる箇所があります。木部のザラザラ感は仕方ないとして、グラスシングした部分のムラ、ウネウネ模様がちょっとなあ・・・良い練習と思いサンディングしてみることにしました。エポキシのサンディングがどれくらい大変なのかも分かるでしょう。

#80と#120でサンディングを始めると、なんだエポキシ大したことないじゃん！一回塗布しただけなので塗膜が薄いせいもありますが、サラサラとサンディングが進みクロスを削らないように気をつける必要がありました。そうしてサンディングしたあとにもう一度エポキシを塗布してみました。使ったのはローラーとウレタンフォームです。ローラーで塗った後のならしにウレタンフォームでそーっと表面を撫でていくと、見事に気泡が消え滑らかにできます。スキージでも可能ですが、どうしてもエッジにエポキシが溜まり引き線が残ってしまいますので、スキージはグラスシングのときに使うほうが良いようです。

ローラー、スキージ、ウレタンフォーム、これらの使い方を練習できた良い経験でした。塗装は下地が肝心、一番下のエポキシの状態が最後まで残ってしまいますね。最初にやったパネル接合の時のエポキシとクロスによる接着部がデコボコで、これはどうしようもないのでした（内側だから許す）。ハルとデッキのファイバーグラスシング時には丁寧な作業をしようと心に決めたのでした。

最終更新 (2011年 9月 09日(金曜日) 20:38)

© 2009 [KayakDog](#)
All Rights Reserved.

powered by Joomla
free templates by Deposit Poker & Unlimited Web Hosting